



自衛隊栃木地方協力本部

見て、触れて、力を合わせて様々な訓練に挑む！ ～地方公務員職員の自衛隊体験入隊に協力～



自衛隊栃木地方協力本部真岡募集案内所（所長 麦倉准陸尉）は、10月18日（水）から19日（木）の間、宇都宮駐屯地において栃木県上三川町役場職員の隊内生活体験を支援した。

上三川町役場の生活体験は本年度2回目で、コロナ禍で参加できなかった未体験の職員にも隊内生活を通じて規律とチームワークを経験してもらいたいという方針の基、9名（男性5名・女性4名）の体験入隊を行った。

今回は、屋外体験に適している気候であることから、前回の生活体験よりもより自衛隊の任務・役割や集団行動・規律を体験できるプログラムを追加し、1泊2日の日程で行われた。

参加者は、被服一式の交付を受け迷彩服に着替えることからスタートした。見慣れない迷彩服や半長靴等を不安そうに手に取り、担当隊員からの着用注意点等を真剣に聞く姿が見られた。その後、基本教練、救急法、懸垂降下、行進等の訓練体験を実施した。懸垂降下ではヘルメットやプロテクターなどの装具類を装着し、高さ約7mの訓練塔からの降下に挑んだ。地上での動作確認後、降下位置に上り指導隊員の「降下！」の合図で一人ずつ懸垂降下した。体験後「降下位置」に立った時は大変緊張しましたが、覚悟を決めて頑張ってチャレンジしました！」と爽やかな笑顔を見せる参加者もいた。

2日目は災害派遣活動の現場を想定し、昨日の体験内容に加えて行進を含めた一連の総合的な訓練体験を行った。履き慣れない半長靴で重い背のうを背負い行進するのは大変であったが職員同士声を掛け合いながら全員で訓練体験を終了した。

参加者からは「体験入隊を通じて、厳しい訓練にも真摯に向き合う自衛官の姿に感銘を受けました。また、困難にもチャレンジする精神や目標達成に必要な団結力を学ぶことができました」との感想があった。

真岡募集案内所は「今後も、隊内生活体験を通じて自衛隊の実際の姿を広く知っていただき、さらなる自衛隊への理解促進・親近感の醸成を図れるよう自治体等の参加要請に応えていきたい」としている。

